

編集後記

■編集委員 (50音順)

出月 康夫	北島 政樹	北野 正剛	小西 文雄
白日 高歩	堤 治	万代 恭嗣	東原 英二

病院長に就任し3か月が過ぎようとしている。望んで就任したものでなく、多くの先生からの貴方が適任との強い薦めに従って、つい身のほどを忘れて乗り出してしまった。院長に就任してやはり頭を悩ますのが患者、あるいはその家族からのクレームであり、放置できないもの、聞くに値しないものと様々である。聞くに値しないと書いたのは決して傲慢な気持ちからではなく、患者のわがまま、あるいは余りな無知、無理解に基づくクレームであり、その意味で耳を傾けるに値しないと書いたのである。いずれにしても患者と医師間のよき信頼関係が大きく変化しはじめた辛い時代の到来を感じさせられる。外科以外の科の問題も遠慮なく寄せられるが、小児科の患者の両親は若い人が多いだけに、ときに大変非常識な母親、父親に遭遇する。そしてなかには、われわれの先祖が大切なものとして伝えてくれた礼儀作法というものをまったく身につけていない人達がいることに気づく。考えてみると、それと同じ世代の若い研修医や医師が病院内には沢山いるはずである。彼らの礼儀作法の欠如も患者からのクレームの誘因としてきわめて大きな問題となるはずである。礼儀正しい若者が大変少なくなってきた理由として、われわれ自身やそれに続く親世代がきちんとした家庭教育をして来なかったことが指摘されるであろう。そしてもちろん、これまでの学校教育にも大きな問題があったであろうし、何よりもよき文化、伝統に目を向けようとしなかったテレビ社会やマスコミ文化にも大きな責任が帰せられるはずである。

先日の院内研修医教育の集まりでは、医師のあるべき姿と題して尊敬する医師会の先輩の先生に講演をお願いした。わかりやすく話していただいたはずなのに若い男女医師の顔つきはまるで別世界の人間の話の聞くといった趣きであった。McGill 大学医学部で教鞭をとった William Osler 博士の「平静の心」(日野原重明ほか訳、医学書院)を読むと、彼が若い医学生につねに古典をひもとくことを勧めており、また医師としてつねに品性をみがくことを督励した様子が窺われる。時代が変わっても医師の仕事の貴さに変わりはない。本号は特集号として胸腔鏡下肺癌手術の現況につき、国内最先端の臨床知見を寄せてもらった。現在、国内のあらゆる外科施設で昼夜をわかず内視鏡下手術の修練に励む多数の若手外科医がいるはずである。優秀な選ばれた存在である男女医師諸君よ！学問的業績、外科医としての修練に情熱を燃やすのみでなく、己の品性の向上のためにもさらに意を尽くしていただきたい。

(白日高歩)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第7巻 第2号) 2002年4月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価：会員には毎号送付されます。その他については、1部定価(本体2,700円+税)(配送料85円)となります。

2002年 年ぎめ予約購読料：16,500円(配送料：医学書院負担)

編集・発行：日本内視鏡外科学会(代表：出月康夫)

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 (財)日本学会事務センター内

(☎03-5814-5801 Fax 03-5814-5820 担当：佐々木、高柳) <http://www.hop.ne.jp/~jses/>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 5-16-9 Honkomagome Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8622, Japan

©2002, Printed in Japan

発売：(株)医学書院(代表：金原 優)(本誌担当：田村、中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文栄社 ☎03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。